

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

ナモの寺 検索

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

第331号
平成23年5月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



撮影：超空正道

魚の鰹カツノマヅロや鮪は
泳ぎ

前進することで
呼吸をしているという

つまり

泳ぐことをやめれば
死ぬということ

われわれ

人間はどうであろう

たとい

その歩みが

のろく
蛙カエルのようであろうと

前へ

一步前へ

その意識は
持ち続けたい

四無量心しむりょうしん

東日本をおそったあの震災から一月半ほどたちました。その痛手はあまりに大きく、被災者はもちろんのこと、世界中の人々の心にも深い傷跡を残すこととなりました。近隣諸国では、日本人以上に、放射能汚染を警戒しているようです。そんな中、復興というにはまだほど遠い段階でありましようが、多くの方々による救いの手が差し伸べられているということ、一筋の光明といえましよう。

私は、普段あまりテレビを見る方ではありませんが、忘れ得ぬ一つの映像があります。震災翌日だったでしょうか、中学生くらい女の子が、誰はばかることなく、遠くを見つめ、流れ落ちる涙を拭こうとせず、何度も、何度も、ただ「お母さん、お母さん」と呼

び続けている姿です。

仏教では「会者定離」「愛別離苦」といつて、諸行は無常であり、愛するものとの別れは必定であり、その苦しさから逃れることは出来ないと言いますが、このたび、不条理な別れを余儀なくされ、どれほどの人たちが、その悲しい涙を流されたのかと思うと、胸が痛くなります。

一方、外国メディアは、このような状況下にあっても、日本人は辛抱強く、略奪といった暴動が起きるようなことはなく、礼儀正しく秩序を守っていることに驚きの目をもつて見、かつ、称賛しているといえます。これはおそらく、あの有名な『平家物語』の冒頭「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり…」で示されるところの無常観、さらには、あらゆる現象

は、直接原因である「因」と間接原因である「縁」とよって成立もし、また破壊もするという、仏教の根幹をなす因縁の教えが、日本の長い歴史の中で、知らず知らずのうちに、身につけているからだと思います。

だからでしょう、テレビ報道で見る、被災者の方々の多くは、辛さを見せぬよう歯を食いしばり、気丈に耐えて、寡黙であります。しかし、仏教学者のひろさちや氏が、次のようなエピソードを紹介されています。

江戸中期の禅僧に白隠禅師がいます。その白隠禅師の弟子に阿察という名の女性がいました。彼女は在家の身ながら、相当奥深く禅を学んだのです。

ところが、この阿察婆さんは、孫娘の死に直面して、棺桶の前で

わんわん泣いています。あまりにも激しい悲歎ぶりに、周りの人々が忠告しました。

「阿察さん、あなたは白隠禅師に禅を習ったんだろう。そんなに泣くなんて、禅の教えが役に立っていないではないか。」

「やかましい！ わたしの涙は尋常の涙ではないんだ。わたしは真珠の涙を流しているのだ。」

それが阿察の返答でした。禅というものは、悲しいときに、悲しまずにいられる精神力を養うものではありません。悲しいときにしっかりと悲しみ、そして真珠の涙を流せる。それを教えているのが禅であり、仏教です……と。

確かに、悲しいときは、先に紹介した女の子のように、思い切り泣くのがいいのかもしれない。私ども、悲しんでおられる人に対する、

して、つい「がんばって」と、安易に励ましがちであります。また、世間の年寄りたちは「あんたが悲しんでばかりいたんでは、お浄土に往ける者も往けなくなってしまう」などとたしなめたりしがちです。しかし、相手の心を深く氣遣う、十分な配慮が必要であります。

では、苦しんでいる他人に対して、どのような心構えで接したらよいのでしょうか。仏教では、次の「四無量心」で説かれます。**〈慈〉**と**楽**、他人を幸せにしてあげたいと思う心。苦しむ人を、楽にしてあげること。

〈悲〉 **抜苦**、他人の苦しみを抜いてあげたいと思う心。悲しむ人に寄り添い、共に泣くこと。

〈喜〉 **随喜**、他人の喜びを共にする心。苦が抜かれた姿を見て、妬

むことなく、共に喜ぶこと。

〈捨〉 **淨捨**、他人に施した恩も、他人から受けた害も忘れ、一切の報いを捨て去る心。苦を抜いてやった、楽を与えてやったという、また、自分が救うという傲慢さを捨棄すること。

以上、四つの菩薩行であります。

私たちが、募金活動やボランティア活動によって、被災者を支援する場合、完全なる実行はむずかしいですが、これら四つの心と照らし合わせながらさせていただくべきでしょう。また、中には、何かしてあげたいが、今の自分にはいろいろな事情で出来ないという人も、善導大師が『五悔』の中で「人の善き行いを喜びて共に励まん」とおっしゃっているよう、まずは、妬みをなくし、随喜の心を持つだけでもよい。それでいいのです。

◎半鐘はんしやう

現在でこそ、スワ火事！ となつても「半鐘」がジャンジャン鳴る光景は時代劇の中で見られないうが、この半鐘の起源は時を知らせるためのもの。インドでは、僧侶の集会の時などには木製の「捷稚かんち」を鳴らしたが、中国では木のかわりに「銅鐘どうしやう」を用いるようになった。それが日本に伝わり、寺院の「梵鐘ぼんしやう」として発展するのである。

半鐘は、その鐘を小型にしたものと考えていい。もっぱら建物の下に吊り下げられていたが、この用途は火災の合図のためだったとか。そのため市中では、火災警鐘用として用いられるようになったのだ。時を知らせるという実利的目的の道具だった鐘が、仏教のシンボルとして扱われるようになった理由

は、その響きにあると考えていいだろう。奥深いその響きは、聞く人に菩提心ぼだいしんを起こさせ、仏教への愛着を呼び起こし、煩惱ぼんのうを軽くしてくれると感じさせた。

この梵鐘には、さまざまな呼び方があるが、以下、主なものを紹介してみよう。「鯨鐘けいしやう」「洪鐘おほかね」「釣鐘つりかね」「撞鐘しやうしやう」「長鯨ちやうけい」「巨鯨きよけい」「華鯨かけい」……。鯨がつくのは、その形状からの連想である。

さらには、梵鐘や半鐘の頭には必ず「竜頭りゆうづす」がついている点に注意したい。実は、竜は仏教の保護神。そのために、鐘には欠かせないのだ。『仏教のことは』早わかり事典

雑記

▼東日本大震災義捐金



先般の春彼岸施餓鬼会の折、震

災で犠牲になられた方々のご供養を、参詣者の皆様と一緒にさせていただきます。あわせて、義捐金の募金をお願いしたところ、多くの方からご協力いただきました。また、月参りの折にいただいた分もあり、3372円の浄財が集まりました。当山としては、施餓鬼供養の布施の一部と合わせて30万円、ご本山に届けさせていただきました。日本赤十字社を通じて被災者にお届けすることになります。ご協力ありがとうございました。

▼入園

孫の道祥みちあきが、この四月から幼稚園に通っています。涙が出てきたのは一日だけのようで「安心。」転んでも泣かなかった！」と、子供なりに我慢しているようです。

◆つなぐ手に思い残して園児バス 沐魚